

サーバー統合お客様導入事例

株式会社NTTデータ

<http://www.nttdata.co.jp/>

約200台のサーバーをLinux搭載のメインフレームに統合、集約し
信用金庫共同システムの“法人向けインターネット・バンキング機能”を構築

適用業務

基幹系システムのサーバー統合

ソフトウェア

z/VM® V4.4

WebSphere® Application Server
V5.0

DB2 Universal Database™

Enterprise Server Edition V8.1

Tivoli® System Automation V1.2

ハードウェア

IBM @server zSeries

IBM TotalStorage®

Enterprise Storage Server®



メインフレームの信頼性、可用性をそのままに、
高いオープン性を実現。
最新のオンデマンド機能を搭載した、
IBM @serverの最上位プラットフォーム。
オープンメインフレーム IBM @server zSeries

全国の信用金庫向けに、新たな インターネット・バンキング機能を構築

株式会社NTTデータ(以下、NTTデータ)はこの
たび、全国200数十庫におよぶ信金共同事務セ
ンター加盟の信用金庫向けに、新たなダイレク
ト・チャンネル・サービスとして、法人向けインター
ネット・バンキング機能「WEB-FB®」を構築しま
した。サービスの提供は、全国7つの地区センタ
ーのうち、北海道・東京・東海・大阪の4地区セン
ターでの運用を皮切りに、2004年4月からスタ
ートしています。

「WEB-FB」は、既存の信用金庫共同システムの
追加機能として、Linuxが稼働するIBMのオー
プンメインフレーム、IBM @server zSeries上で
機能し、同じくIBMのミドルウェア群、
WebSphere®やDB2®などを利用して構築され
ている点を大きな特徴としています。

200台のWindows®サーバーが稼働していた 従来のバンキング・サービス・システム

地域金融活性化の担い手として、地域の中小企
業や住民等をパートナーに、豊かで活力ある社
会づくりの取り組みを進めている信用金庫。特に、
2003年に金融庁より発表された「リレーション
シップバンキング構想」では、信用金庫業界に対
して、中小企業の再生・支援や地域社会活性化へ
の積極的な取り組みが求められています。

「こうした中、私たちは「リレーションシップバン
キングの機能強化」に寄与する多様な提案を実施
しており、その一環として、中小企業の資金移動の
利便性向上に貢献するシステムとして構築したの
が今回の「WEB-FB」です」と、開発担当者である
NTTデータの渡辺部長は語ります。

従来稼働していた

「FB」システムは、
各信用金庫に対
応した約200台
のWindowsサー
バーにより、全国約
20万社の企業に
法人向けバンキ
ング・サービス(パ
ンコン通信での預
金の残高照会、入
金照会、総合振込、

給与振込、口座振替業務など)を提供する、とい
うものでした。

このシステムを利用するためには、企業側は専用
の端末もしくは専用ソフトが必要でした。また、
全銀協パソコン伝送手順(ファイル伝送)に準拠し
ており、伝送結果をオンラインで確認する手段が
なく、企業と信用金庫間ではデータのやり取りの
都度、持込データ内容のFAX送信や、電話を使
った確認作業が必要である、といった難点があり
ました。

Linux上で高い信頼性、可用性を実現するため 選択されたIBM @server zSeries

新規システムにおいては、当初、UNIXサーバー
を利用して構築する案が検討されていました。
しかし「変化に即応して最新技術を採用しつつ、
トータル・コストを抑えた柔軟なシステムを」との
信用金庫の要望にこたえるため、NTTデータで
は、オープン環境への移行と、システムの集約と
いう手法を選択。そこで、各地区センターに
Linuxを搭載した最新のメインフレーム
IBM @server zSeriesを設置し、Windows
サーバーによる旧システムを統合、発展させるこ
ととしました。

zSeries採用の理
由について、開発
スタッフの、NTT
データ 三浦課長
は次のように語り
ます。

「『WEB-FB』は、信
用金庫にとって、企
業の資金決裁を担
う重要な顧客チャ
ネルの1つであり、

24時間365日稼働可能な高い可用性が求めら
れます。また、今後インターネットの利用拡大に
よるトラフィックの増大においても均一なサー
ビスを提供できる柔軟な拡張性も重要です。

一方今回は、金融機関の基幹系システムでは例
の少ないLinuxを活用したシステム構築を目指し
ており、この点でも、多くの導入先で堅牢なシ
ステム環境を実現しているzSeriesのLinux専用機
ならば、今回のシステムに最適なプラットフォーム
であると判断して、導入を決定しました」。

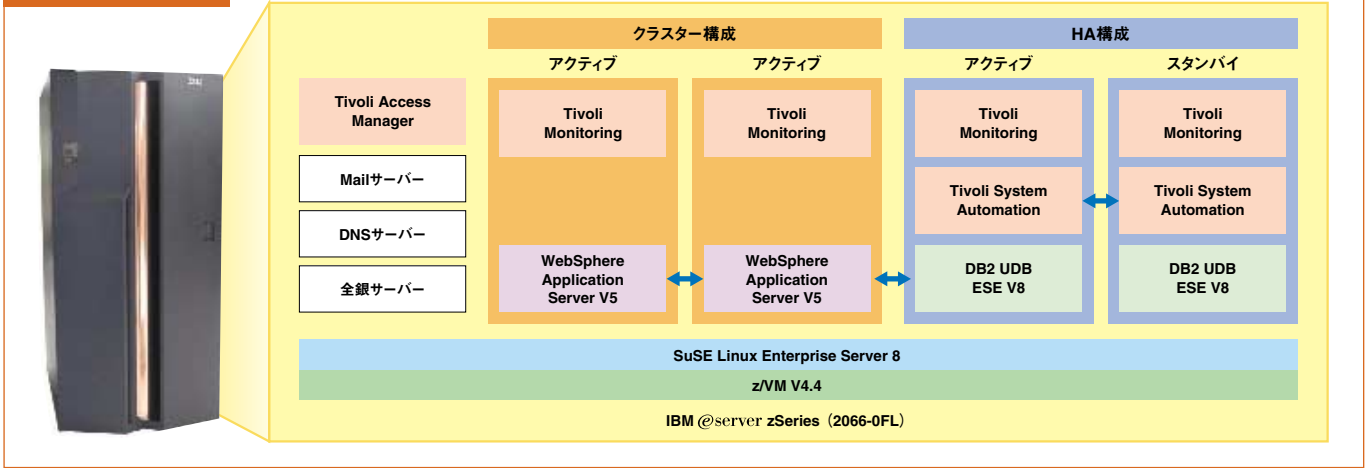


株式会社NTTデータ
金融ビジネス事業本部
チャンネルビジネスユニット
第一開発担当 課長
三浦 弘二 氏



株式会社NTTデータ
金融ビジネス事業本部
チャンネルビジネスユニット
第一開発担当 部長
渡辺 晃 氏

システムの概要



VMでLinux利用の信頼性と効率を高め、数十台のサーバーを1台のzSeriesに統合

今回NTTデータがLinuxに注目した背景には、世界の技術者が日々革新を加え、ソースが公開されているため、必要に応じて機能の改変や提供が行えるなど、将来にわたって最適なコストパフォーマンスを提供可能であるといった利点があります。

またzSeries、およびLinux on zSeriesについて、渡辺部長はこのように語っています。「実は、既にLinuxについては担当内でも十分な実績があり、信頼性面でも十分耐えられるとの確信はあったのですが、Linuxの上位にVMを配置し、各Linuxを管理下におくことで、より高い信頼性が実現できるという点は魅力的でした。しかもVMによる統合効果により、必要なパフォーマンスを確保しつつもCPUの使用効率を高め、CPU単位で課金されるソフトウェア・ライセンス費用を抑えることができました」。

さらにサーバー統合については、「以前、分散系システムを構築したとき、監視ポイントの設定や管理でとても苦労しました。そこで今回、複数サーバーをつなぐのではなく、zSeriesにアプリケーションを統合すれば、故障ポイントや監視ポイントも減り、信頼性も向上するものと考えたのですが、うまくいっているようですね」と渡辺部長は語ります。

また本システムでは、IBMのサポート体制等が評価され、WebSphereやDB2、さらにTivoliなどのIBMミドルウェア製品も随所に活用されています。

エンド・ユーザー、信用金庫の双方に多大なメリットをもたらす新システム

今回の「WEB-FB」は、エンド・ユーザーである企業、および信用金庫の双方にとってメリットがあります。

まず、エンド・ユーザーである企業にとっては、

- インターネットに接続可能なPCとブラウザだけでサービスが受けられるため、専用端末やソフトは不要。
- 送付データの整合性確認から、取扱い状況、決済および為替発信結果の照会まで、すべてを自社PCからリアルタイムに行うことができるため、利便性が格段に向上。

同時に、信用金庫にとっても、

- 従来は必要だった、企業への専用端末/ソフト導入時の支援、各種問い合わせ対応、データやり取り時の企業との確認作業といった業務負担を劇的に軽減。
- 各所に散在し運用管理も複雑だった分散システムを、信頼性・安定性に勝るメインフレームに統合したことで、システム管理/運用の作業を大幅に軽減。センター側でも、1台のzSeries上に仮想サーバーを複数構築することで、一元的なシステムの運用管理を実現。
- リレーショナルデータベース指向の信用金庫の機能強化の一環として、従来からのANSER、テレホン・バンキングなどの機能と合わせ、地域企業の多様な資金移動ニーズに柔軟に対応。

など、多くのメリットが実現します。

いっそうの機能強化を目指すNTTデータに日本IBMもパートナーとしてサポート

NTTデータではさらに、同一基盤上で、柔軟なサービス対応が求められる個人向けインターネット・バンキングの機能を提供開始しています。

「今後は中小企業ポータル・システムやコール・センターとの連携、Webコラボレーションなどの機能を拡充し、変化の激しい金融サービスに迅速かつ柔軟な対応を目指します。そして2005年秋までに、リスク管理機能の高度化、融資機能の強化など、信用金庫の「リレーショナルデータベース指向の信用金庫の機能強化」をさまざまな側面から強力にサポートする機能をご提供していく予定です」(渡辺部長)。

また日本IBMも、優れた販売力、技術力を備えたSI企業とのパートナー・ビジネスを強力に推進しており、今後もオープン・システム市場におけるNTTデータとの協業をさらに拡大していく計画です。

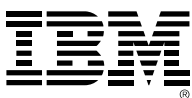
日本IBMとのパートナーシップ強化を通じて適材適所の最新技術の提供を目指す

「NTTデータでは今後も、地域企業のニーズを先取りし、「WEB-FB」の機能追加を行っていくことで、地域企業の活性化に貢献する、リレーショナルデータベース指向の信用金庫としての信用金庫の位置付けの確立を支援し続けたいと考えます。そのためにも、お客様に、適材適所で最新技術をご提供できるよう、日本IBMさんとのパートナーシップを今後も継続していきたいと考えています」(渡辺部長)。

IBM @server zSeries関連製品の詳細情報については、
IBMホームページ <http://www.ibm.com/jp/servers/eserver/zseries>
をご利用ください。

お問い合わせは、IBMビジネス・パートナー、製品販売店、弊社営業担当員、
または、ダイヤルIBM (☎ 0120-04-1992)へ。
受付時間：月～金 9:00～18:00 (祝日、12/30～1/3を除く)
携帯電話等でおかけのお客様は下記の電話番号をご利用ください。
ダイヤル IBM 044-221-1522 (この場合、通話料金はお客様のご負担となります。)

WEB-FBはNTTデータの商標。
IBM、On (オン) Demand Business、e (エ) コゴ server、DB2、DB2 Universal Database、Enterprise Storage Server、Tivoli、TotalStorage、z/OS、z/VM、zSeries、WebSphereは、IBM Corporationの商標。
Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標。
Linuxは、Linus Torvaldsの米国およびその他の国における商標。
他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標。



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12
04-05 Printed in Japan

●掲載された情報は2005年4月現在のものです。事前の予告なく変更する場合があります。
●製品の写実は出荷時のものと一部異なる場合があります。●すべての場合において移行が可能であることを意味するものではありません。お客様の環境、その他の要因によって異なります。●製品、サービスなどの詳細については、弊社もしくはIBMビジネス・パートナーの営業担当員にご相談ください。